

2015年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日	2017年	6月	27日
氏名：	田中 涼子	実施国：	カンボジア		協力活動・ 調査研究
活動名称	カンボジア初等教員の主体性形成に関する研究—体育科の実践を中心に—				
実施期間	2015年7月1日～2016年6月30日				
(1) 申請した動機					
<p>カンボジアでは、2006年から日本のNPO ハートオブゴールドとJICAによる草の根技術協力事業「カンボジア王国小学校体育科教育振興支援事業」が始まり、従来行われていた体育科教育とは異なる体育科教育が導入された。申請者自身、平成24年度1次隊としてカンボジア王国クラチェ州に赴任し、本事業と緩やかに連携しながら、小学校体育科教育の普及活動に従事した。その結果、体育科教育に対する個々の教員の取り組みの程度すなわち主体性にばらつきがみられることが分かった。なぜ体育科教育に対する主体性が高い教員と低い教員が存在するのか。このような関心から、申請者は、広島大学大学院に進学し、カンボジア初等教員の体育科教育に対する主体性形成にかかる促進・阻害要因を明らかにすることを目的に研究を進めており、フィールドワーク遂行のため、本プロジェクトに申請した。</p>					
(2) 活動内容概要					
<p>(1) カンボジア初等教育における体育科教育の意義—カリキュラムの通時的分析— ・ポルポト政権後の初等教育カリキュラム全4版（1980年版、1987年版、1996年版、2006年版）の体育科の目標、内容等を通時的に分析し、カンボジアにおける体育科教育の意義を明らかにした。</p> <p>(2) カンボジア小学校体育科教育普及事業の導入経緯・状況調査 ・ハートオブゴールド東南アジア事務所を訪問し、同事業の状況、直面している課題等について関係者に聞き取り調査を行うとともに、関連する一次資料を収集した。</p> <p>(3) カンボジア初等教員の主体性形成にかかる実態調査 ・調査対象の小学校3校を訪問し、教員の体育科に対する「認識」ならびに「行動」を調査した。</p> <p>(4) 主体性形成に関わる促進要因と阻害要因の解明 ・現地調査で得られた知見をもとにカンボジアの教員の主体性形成に関わる要因を分析した。</p> <p>(5) 研究成果の公表 ・2016年6月に開催される日本比較教育学会で研究成果の一部を公表した。</p>					
(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等					
<p>【活動の成果】</p> <p>(1) 初等教育カリキュラムの通時的分析を通して、カンボジアにおける体育科教育の意義の変遷を明らかにすることができたこと。</p> <p>(2) カンボジア初等教員の体育科に対する「認識」ならびに「行動」の調査を行い、その分析を行うことで、主体性形成に関わる促進・阻害要因を解明することができたこと。</p> <p>(3) 日本比較教育学会にて、研究の成果を発表することができたこと。</p> <p>【反省点】</p> <p>フィールドワークの計画にゆとりがなかったことである。短期間に、3つの調査地を訪問する日程を組んでいたため、現地の実態に応じた動きがとりづらいことがあった。</p>					
(4) 今後のプラン					

申請者は、次の3つの活動に取り組みたいと考えている。

- (1) 研究・調査の結果を修士論文としてまとめ、研究を通して得られた知見を「小学校体育科教育普及事業」に提供し、プロジェクトの発展に貢献すること。
- (2) 現職の小学校教員であることを生かして、勤務校や、出前講座の依頼を受けた学校で、カンボジアをはじめとする開発途上国、国際協力に関する理解を深める国際理解教育を行うこと。
- (3) 研究を続け、国際教育協力の専門家を目指すこと。